

低温科学研究所 共同研究集会
シンポジウム「変化する環オホーツク陸域・海域環境と今後の展望」

日時：2019年7月26日（金） 09:00～7月27日（土） 16:00

場所：北海道大学 低温科学研究所 3F 講堂

主催：北海道大学 低温科学研究所

連絡先：低温科学研究所 porc-info@pop.lowtem.hokudai.ac.jp

趣旨：環オホーツク観測研究センターは、オホーツク海を中心とする北東ユーラシアから西部北太平洋にわたる地域（環オホーツク圏）が地球規模の環境変動に果たす役割を解明すること、また気候変動から受けるインパクトを正しく評価することを目的とし、その国際研究拠点となることを目指して平成16年4月に設立されました。これまで、短波海洋レーダ観測、衛星観測、船舶観測、現地調査等を通し、オホーツク海及びその周辺地域の環境変動モニタリングを進めてきました。また、ロシアをはじめとする国際的な研究ネットワーク構築を進めております。近年、環オホーツク圏では温暖化が進み、シベリア高気圧の急速な弱化、オホーツク海季節海氷域の減少、海洋中層の温暖化、陸域雪氷圏の面的変化としてその影響が鋭敏に現れ始めています。

当センターは本年設立15周年を迎えました。これを機にシンポジウム「変化する環オホーツク陸域・海域環境と今後の展望」を開催し、これまで環オホーツク研究に関わってくださった研究者が一堂に会し、多分野に亘って進めてきた環オホーツク研究を総括するとともに、今後の展望を話し合う機会としたい、と考えております。

プログラム

7月26日（金）

09:00-09:05 開会の挨拶 福井 学（北大・低温研 所長）

09:05-09:30 「環オホーツク観測研究センターの歩み」

三寺史夫（北大・低温研）

【セッション 1 陸域 水・物質循環】 座長 的場澄人 (北大・低温研)

09:30-09:55 「河川流域—海洋沿岸域を流域圏とした物質動態研究」
長尾誠也 (金沢大学)

09:55-10:20 「北海道東部における生態系の物質循環」
柴田英昭 (北大・フィールド科学センター)

10:20-10:45 休憩

10:45-11:10 「カムチャツカ半島の河川流出量の見積もり—オホーツク海との
関係とは—」
小松謙介 (三重大学)

11:10-11:35 「アムール・オホーツクプロジェクトのやり残し：北海道の河川
流域を対象とした河川—沿岸物質輸送における陸面過程の精緻化」
白岩孝行 (北大・低温研)

11:35-13:00 昼食

【セッション 2 海洋生物地球化学】 座長 中村知裕 (北大・低温研)

13:00-13:25 「マルタノフスキー号航海により見えてきた環オホーツク海域
中層における溶存有機物の動態」 山下洋平 (北大・地球環境)

13:25-13:50 「オホーツク海と親潮域における微細藻類の動態と生物地球化
学過程」 鈴木光次 (北大・地球環境)

13:50-14:15 「オホーツク海が親潮周辺の海洋環境に与える影響評価：進捗
とこれから」 黒田 寛・戸谷夕子・谷内由貴子・中野渡拓也 (北水研)

14:15-14:40 「環オホーツク海域における炭素・窒素循環変動研究と今後の
展望」 渡辺 豊 (北大・地球環境)

14:40-15:05 「環オホーツク海域の物質循環研究」 西岡 純 (北大・低温研)

15:05-15:30 休憩

【セッション 3 大気・海洋・海氷相互作用】 座長 三寺史夫 (北大・低温研)

15:30-15:55 「巡視船「そうや」の観測を通して見えてきたオホーツク海海氷の特性」
豊田威信 (北大・低温研)

15:55-16:20 「オホーツク海海氷の地球規模大気循環に及ぼす影響について分かっていることとないこと、そして今後の気象気候研究の展望」
立花義裕 (三重大学)

16:20-16:45 「表層と中層をつなぐ北太平洋の子午面循環」
中村知裕 (北大・低温研)

16:45-17:10 「北半球最大の海氷生産ポリニヤを持つオホーツク海」
大島慶一郎 (北大・低温研)

17:30-19:30 懇親会

7月27日 (土)

【セッション 4 海洋循環】 座長 西岡 純 (北大・低温研)

09:00-09:25 「海洋レーダによる宗谷暖流の長期連続観測と今後の展望」
江淵直人・深町 康・大島 慶一郎・高塚 徹・石川 正雄・大坊 孝春・
白澤 邦男・若土 正暁 (北大・低温研)

09:25-09:50 「オホーツク海・千島周辺の混合・海流・水塊とその影響」
安田一郎 (東京大学)

09:50-10:15 「オホーツク海の海洋・海氷変動と物質循環システムにおける役割」
中野渡拓也 (北水研)

10:15-10:35 休憩

【セッション 5 北極圏と環オホーツク】 座長 白岩孝行 (北大・低温研)

10:35-11:00 「アムール川流域における溶存鉄動態の長期的変動要因と今後の研究展望」
大西健夫 (岐阜大学)

11:00-11:25 「樹木年輪データが示す東アジアと北極圏の関わり—数十年周期気候変動の歴史への影響」 中塚 武（名古屋大学）

11:25-11:50 「古気候・古環境研究に関する環オホーツク研究の今後の展望」 関 宰（北大・低温研）

11:50-12:15 「札幌における気象・雪氷観測からグリーンランド氷床雪氷質量変動研究へ」 庭野匡思（気象研究所）

12:15-13:30 昼食

13:30-13:55 「ミクロな積雪プロセス研究から気候研究へ」 青木輝夫（国立極地研究所）

13:55-14:20 「ロシア極東・北極圏の経済状況」 田畑伸一郎（北大・スラブ・ユーラシア研究センター）

14:20-14:45 「雪氷研究と探検の連携 —アイスコア掘削、犬ソリ、登山、冒険スクール」 的場澄人（北大・低温研）

14:45-15:00 休憩

15:00-16:00 **【総合討論・総評】** 座長 三寺史夫（北大・低温研）